

第76回火山噴火予知連絡会・幹事会議事録

日 時：平成9年10月21日（火） 12時00分～13時00分

場 所：気象庁 観測部会議室

出席者：井田会長

岡田、浜口、藤井（敏）、渡辺、山岡（代理）、石原、国土庁（代理：田中）、文部省（代理：森）、気象庁（代理：三上）

事務局：塚越、安藤

1. 長期的予測WGの各サブグループの検討結果についての報告

- 1) 長期予測サブグループではケーススタディとして三宅島、有珠山、東北の火山についてシナリオ、観測体制、防災上の対応を検討した。
- 2) 活火山サブグループでは活火山の定義を見直す作業に入った。測地学審議会噴火予知計画の建議があり、これにリンクするため、早めに概要の議論を進めていく。活火山を1万年とすること、活火山のランク分けをすることについては大体合意が得られた。
- 3) 火山情報サブグループではケーススタディとして雲仙岳と伊豆大島の最近の活動について、現地官署で作成したカラーコード案と実際の活動を対比させて、問題点を洗い出した。

2. 雲仙岳ワーキンググループの解散について

- ・前回の幹事会ではかったことだが、すでに2年間開催していないことから、ここで正式で解散を提案する。本会議で正式に決定する。

3. 火山噴火予知連絡会のデータベース化の整備について

- ・予知連絡会のデータベースとして、気象庁のデータをホームページという形で出す方向で進めてきたが、一般向けについては、当面置いておく。
- ・予知連絡会委員に限ってパスワード付きで、今まで異常時等でFAXベースで送っていたもの、及び予知連絡会の資料についても、事前に見てもらえるようなデータベースを整備する方向で準備中である。できれば気象庁のデータだけではなく、他機関の方々にも情報の提供をお願いしたい。このため、各大学・機関にどの程度の情報提供が可能かアンケートを行う。集計結果については幹事会で報告する。

4. 伊豆東部の地震火山活動でのマグマ貫入モデルの構築について

- ・会長より伊豆東部で地震発生、地殻変動が観測された時点で、どれだけの量のマグマが地下のどの辺まで貫入したかを、自動的に解釈できるモデルの開発及びその監視を気象庁で行うことが提案された。
- ・気象庁は、東海監視のための断層モデル、開口モデルによる地殻変動の計算が可能である。しかし、いくつかの問題点もあり、これらをクリアするためには、技術委員会を設けて、テスト等を含め順次実施していく必要がある。すぐ実行に移すことは難しいので、必要に応じて関係者と話を進めていく。

5. その他

- ・文部省から測地学審議会の全般的な経過説明があった。